

国立研究開発法人審議会  
新エネルギー・産業技術総合開発機構部会（第23回）  
議事要旨

○日時：令和4年12月22日（木）10:00～12:00

○場所：WEB会議

○出席者

渡部部会長、高井委員、竹内委員、小川委員、熊崎委員

○議題

議題1：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構第4期中長期目標変更（案）について

議題2：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構第5期中長期目標（案）について

○議事概要

議題1について、事務局より説明を行い、委員から以下の意見が述べられた。

- ・3つの新規基金事業の追加等により約5.7兆円という規模の大きな基金運用となるが、職員も限られると思われる中、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）側の体制をどのようにするのか、経済産業省側の体制も含めてしっかり対応していただきたい。
- ・ディープテックスタートアップ支援事業については、非常に専門性が高く、目利き力が問われる。専門人材をどのように確保していくのかということと、外部連携としてベンチャーキャピタルと連携していくことが重要。他方、国内のベンチャーキャピタルも含めてなかなか目利きがうまくいっていないという現状も聞いており、例えば海外のベンチャーキャピタルとの連携も視野に入れていただきたい。
- ・バイオ分野については、アメリカ・中国が巨額の投資をして勝機をかけているということだが、日本のバイオ戦略における位置付けも踏まえつつ、日本として注力すべき分野を考えながら進めていただきたい。

議題2について、事務局より説明を行い、委員から以下の意見が述べられた。

- ・人材育成も重要であるが、人材採用をNEDOとしてどのように進めるのか。これまで明らかに業務の幅も変わった中で、人材採用の体制・採用時の評価基準も変わってきていると思われるが、経済産業省とも方向を合わせながら対応することが重要な論点。
- ・「研究開発マネジメントを通じたイノベーション創出への貢献」の項目において、研究インテグリティの取組について言及すべきではないか。また、事業者アンケートによる貢献度評価については、NEDOの業務を直接的に評価するという重要なアンケート調査ということであればもう少し工夫が必要である。
- ・「研究開発マネジメントを通じたスタートアップの成長支援」の項目において、成果指標がアウトプットベースの印象がある。NEDOの支援によってどのくらいのインパクトがあったのかを見て評価するような指標とするべき。
- ・「政策立案や研究開発マネジメントに貢献する技術インテリジェンスの強化・蓄積」

の項目について、技術が多様化して次に必要となる技術の未来予測が困難となる中、様々な技術情報を調査し、それを整理した上で蓄積しておくことが大事。その際、蓄積した技術インテリジェンスを活用しようとする場合には誰がキーマンになるのかを人物特定して整理しておくべきである。

○問い合わせ先

経済産業省産業技術環境局総務課産業技術法人室

Tel : 03-3501-1948

Fax : 03-3501-7908

以上